

## 平成 30 年度

### 第 2 回総合教育会議 会議要点録

日 時	平成 31 年 2 月 13 日（水）10 時 00 分から 11 時 30 分
場 所	大府市役所 5 階 委員会室 1
出 席 者	市長、教育長、竹中教育委員、富田教育委員、西村教育委員、浅井教育委員、永田教育委員
企画政策部 教育委員会	企画政策部長、企画政策課長、企画係長 教育部長、指導主事（3）、学校教育課長、学校教育係長、学校教育係主査、 学校施設係長、放課後係長
オブザーバー	副市長
公開の可否	公開
傍聴者数	0 人
議 題	（1）新学習指導要領について ア 英語教育について、イ 道徳教育について、ウ 情報活用能力について （2）子どもの学力テスト・体力テストの結果について

#### 開会

教育長 開会宣言及び議長は教育長が務める旨を述べる。

#### 1 あいさつ

市長

- ・平成 31 年を迎えて 1 か月少し過ぎた。教育委員の皆さんも、大府市健康プログラムに参加されていたと思うが、1 月末でプログラムが終わり、私はまた早く歩数計を付ける生活をしたいと思っている。
- ・最近、特に心を痛めているのが千葉県の児童虐待の事件で、決して他人事ではないと思っている。いじめについては、いじめ対策の条例を作ったが、児童虐待についても、これから 1 年間ぐらいかけて、抜本的に市として何ができるのかということをして市長部局、及び教育委員会とも連携をして進めていきたい。県の児童相談所の機能もあるが、今、児童虐待に関しては、市も相当役割分担を求められており、市としての体制の強化、場合によっては弁護士等も活用し、いざというときには毅然たる態度で子どもの命を守るために、これから検討をしていきたい。
- ・昨日、平成 31 年度の大府市の予算を記者に説明させていただき、一部新聞でも出ていた。今日の議題にもあるが、次年度は、部活動の指導員の導入、道徳の副教材の作成、プログラミング教育用パソコンの導入を行う。それから、外国人児童生徒の支援ということで日本語指導講師の派遣、ハード面では、普通教室のクーラーについて、今年の 5 月末には何とかすべて設置できる見込み

である。小中学校のトイレの洋式化についても、平成31年度中で全ての小中学校で完了する予定にしている。

- ・北山小学校では、31年度は校舎北側の土地を購入し、通学の安全性を確保するために歩道橋の設置する大きな事業を予定している。

- ・子育て支援及び、小中学校の教育支援を引き続き力を入れていきたいと思っているので、建設的な御意見をいただきたい。

教育長

- ・先日、日曜日から大府市の盆梅展が始まり、寒い中、春がやがて訪れるという空気があるが、インフルエンザの猛威は衰えておらず心配をしている。現在のところ、学級閉鎖はない。

- ・高校入試では、私立推薦一般はこれで終了し、今後は、公立の一般、推薦入試が予定されており、3年生の子どもたち、保護者もいろいろ心配をする時期かと思う。

- ・この総合教育会議が始まったのが平成27年5月で、総合教育会議が始まる前は「市長と教育委員との懇談会」を実施しており、平成19年2月にスタートをした。旧懇談会から今日の会議までの回数を数えると、今回で20回目になるが、この会議の趣旨は、市長の意向と、教育委員の皆様方のお考えを懇談、あるいは協議、意見交換の中ですり合わせながら同じ方向見ていこうということだと思っており、今日もまた忌憚のない御意見をいただき、意見交換をできたらと願っている。

## 2 協議・調整事項

### (1) 新学習指導要領について

《事務局から内容について説明》

指導主事

- ・2020年度より新学習指導要領の全面実施が迫っており、変更する部分できるだけ簡潔にお話をさせていただく。

- ・まず、新学習指導要領の変更ポイントは、教員が何を教えるかでなく、何ができるようになるかという評価をしていかなければいけないということになる。それに伴い大切になることは、いわゆる主体的対話的で深い学びという部分での改善になる。学校全体としてどう取り組むかという部分で、カリキュラムマネジメントという新しい概念が生まれている。これは、現在、東山小学校と大府市が愛知県代表として研究しており、来年度全国で発表予定となっている。その中のカリキュラムマネジメントの中の1番大切な部分がいわゆるグランドデザインというものになる。

- ・3ページの図は、基本的には学校経営案の最初のページに載せるものになるかと思う。その学校の強み弱みや、子ども、地域、行政の強み弱みを鑑みて戦略的にこの学校どうしていくのが、今後、学校には求められていくと考えている。

- ・実際に具体的に何を变えなければならぬかがこの資料に書かれている。こ

のうち、本日の議題としている、道徳教育の充実について、これは教科化に伴い、教科書と評価が必要になる。評価はアクティブラーニングを活用しなければならないと思われる。また、外国語教育の充実については、かなりの単語を中学生で覚えなければいけない。その部分が小学校に前倒しとなる。情報活用能力の育成について、コンピューター等を活用した学習活動の充実というものが大きなものとなる。本日、話をさせていただくのは以上の部分となる

教育長

・事務局の説明を一括して行い、そのあと意見交換とする。

指導主事

・英語教育について、2020年4月から小学校で、2021年から中学校で新学習指導要領が全面実施される。それに伴い、英語教育がどのように変わるかを昨年度の総合教育会議でお話をさせていただいた。今回は英語教育の課題についての大府市の取組についてとなる。まず、変わる内容を簡単に説明する。2020年から小学3、4年生は週1時間の外国語活動、5、6年生は週2時間の外国語活動に取り組む。現在、小学校は移行期間中なので、本年度3、4年生は、年間15時間、5、6年生は年間50時間学習している。平成31年度も時間数は変わらない。

・3、4年生は聞くこと話すことを中心に英語に慣れ親しみ、5、6年生は読むこと書くことも学習し、中学校の英語につなげる。2021年から中学校の英語は学ぶ単語数が2,200～2,500語学ぶことになり、現在のおよそ2倍の単語数を学ぶ。また、高校の学習が中学校におりてくる。そして、主体的なコミュニケーション活動を充実重視となる。

・課題としては、①英語嫌いをつくらない楽しい授業づくり、②授業時間数の確保、③小学校教員の英語を教える負担感についての3点となる。

・これら課題について大府市では、①ALTと担任との授業の進捗協力をしており、また、外国語専科教員として県の加配が大府市で小学校に1名配置されている。また、ICTの積極的な活用で理解を深めている。②授業時間の確保としては、各学校の実情に合わせて総合学習やクラブ、委員会の実施時間を精選するなどの工夫をしている。③教員の指導力英語力等に対する負担感の軽減については、市内に小学校5人、中学校4人のALTを配置し、デジタル教科書を使って効果的に事業をしている。

・英語検定受験推進の取り組みとして、昨年度から中学生対象の英語検定3級以上の受験料補助に加え、本年度は教育委員会で受験会場を大府市役所に設置した。26人の大府市役所会場の受験があり、計258人の申請があった。

・次に道徳教育について、平成30年度から小学校で、31年度からは中学校で道徳が教科化される。教科になると、教科書が作成され、評価を行う授業を必ず週1時間行うことになる。評価は5、4、3のような数字の評価ではなく、記述式となる。

・教師側が価値を押しつけるのではなく、児童生徒が自ら考え、議論する道徳への質的返還も求められている。また、多様な教材の開発にも努めることが、学習指導要領に示され、郷土の特色が生かせる教材は児童にとって、教材に親しみながら、狙いとする道徳的価値について考えを深めることができると書かれている。

・現在、平成31年度の2学期からの使用を目標に、「大府市にゆかりのある人」という道徳資料を作成中で、小学校版と中学校版がある。これは児童生徒が直接書き込むことができるワークブック形式でB5判カラー印刷の予定である。児童生徒が書くという行為は自分の考えをまとめたり、発表したりするときの自信になり、考えを交流しやすくなったり、改めて自分の成長振り返ったりすることができるなどの効果がある。各学年の資料は小学校3年生から中学校3年生まで、1学年1名の計7名の方を取り上げ、それぞれに狙いを設定している。Aは主として自分自身に関する事。Bは主として人とのかかわりに関する事。Cは主として集団や社会とのかかわりに関する事。Dは主として生命や自然精巧なものとのかかわりに関する事を表している。

・次に情報活用能力について、従来の学習指導要領においても情報活用能力とが位置づけをされていたが、新学習指導要領では、情報活用能力自体を学習の基盤と位置付けている。よって、読み、書き、計算プラス情報活用能力がこれからの子どもたちにとっての学習の基盤となるということの意味している。

・実際情報活用能力とは何かということについて次のとおりとなる。まず、(1)受け手の状況を踏まえて情報発信や伝達を行う力、(2)情報の科学的な理解、基礎的な理論や方法の理解、(3)情報社会に参画する態度、情報モラルの必要性となる。これについては道徳の時間の年間計画にも入れている。

・大学入試がこれから変わる中で、情報活用能力がどのように取り入れられるかということも心配をしている。

・大府市の現状について、まず基本的な操作として、ログインする段階で各児童生徒が持っているIDパスワード入力をするよう指導している。

・電子ファイルの保存としては、これは小学校中学校ともに大切なリテラシーだが、うっかり消してしまったり、意図するフォルダーにファイルが入ってなかったりということが散見されるので、指導していかなければならない。

・編集の部分、プレゼンに関しては、子どもたちは電子黒板を駆使して結構行っているのですが、十分伸びていると思う一方、エクセルやワードでの編集については、これからまだやっていく必要があると思っている。

・まだ小中学校間で温度差があり、実践が遅れている小学校、中学校もあるのが現状となる。

・小学校におけるプログラミング教育と中学校技術科においての小中連携について、やはり、主体的対話的で深い学びを求める教育を踏まえて年間計画を作成予定である。

- 教育長 ・御質問等あればお願いしたい。
- 浅井委員 ・英語、道徳、プログラミング教育について素晴らしい取り組みだなと思ったが、今までの学校での時間の何を削ってこれらを新たに入れるのか。全部プラスするというやはり無理だと思う。
- 指導主事 ・小学校は今まで木曜日に委員会だとかクラブをやっていたが、試行的に授業にし、指定時間数の確保をしている。その他、文科省が示すのは朝のドリルタイムいわゆる始業前の時間、15分×3＝45分あるので、年間計画を立てて例えば漢字の書き取り等を行う想定だが、それは現実的には難しいと感じており、授業時間数を増やなければいけないと考えている。
- 浅井委員 ・時間数増に関連する質問だが、土曜日を授業に充てるとか、夏休みを減らすとかそういうことは考えているか。
- 指導主事 ・現在のところ、知多管内、愛知県内では無いと聞いている。今後、考えなければならなくなる可能性があるかもしれないが、本市もその予定は無い。
- 永田委員 ・英語教育について、2021年度から中学校で学ぶ単語数が約倍になるということだが、中学校だと専門の先生が教えられる。一方、小学校の先生は、いろんな教科を受け持ち、その中で、得手不得手があると思うが、先生方の負担と、指導力に対しての差をどう埋めるか。
- 指導主事 ・教員の研修を行っている。また、大府市はALTが各学校に配置されているとても恵まれている環境なので、そのALTの先生にも、先生たちが教わりながら、相談をしながらやっている。ALTの先生方もALTミーティングというものを行い、より効果的な授業ができる工夫をしている。
- 竹中委員 ・道徳教育について、教科化されるとか、評価をされるということが言葉としては、保護者等に広く行き渡っていると思うが、今回の資料を見て、「成長を積極的に受けとめて認め励ます個人内評価」という書き方とこの言葉を聞いてすごくほっとした。「評価」という今までのほかの教科と同じ言葉を使うと、誤解を招くような気がする。道徳教育の評価の意味合いが誤解されないように周知できると良いと感じた。
- 指導主事 ・そのように各学校も考えて学校だより等で伝えることもあるが、私たちも学校に伝えていく必要があると思う。

・評価をするためには、教員側も子どもをよりよく見る必要があって、その結果、今、自身のクラスに足りてないことに気づいたり、それが更に授業の改善につながるなど、そういう効果も期待できるという面でも良いと思う。

浅井委員      ・情報発信や伝達を行う力は、実は私の感覚だと道徳ととてもリンクしてくる気がするので、この辺を全く別個にはせずに関連させて、合せていくのも一つの考えだと思った。

指導主事      ・まさしくそのとおりだと思う。いわゆる合科的な授業というのは、いわゆる国語、算数、理科、社会を一つのカリキュラムにした教育ということで、言われてもう20年以上経つ。ただ年間計画を作る難しさもあり、全部が全部進んではないが、やはり必要ではないかと感じている。ただ、文部科学省指定の授業時間数が決まっているから、それはクリアしないと行かない。

富田委員      ・2020年度から新学習指導要領が全面実施されるにあたり、非常に心配していることが、先生方の健康問題である。働き方改革が叫ばれておいる。  
・また、あまり話題になっていないこととして、現場に「観点別評価」の考えが入ってきて、この観点にどのように評価するのか、ということがすごく大変だった記憶がある。今回は、今までの4つの観点が3観点になるということで、知識と技能がまとまって一つになる。それからもう一つが実行力、判断力、表現力、これは多分今までの観点別評価でいけると思うが、新たに学びに向かう力、人間性等を涵養することが関心意欲態度に取って変わっている。この観点の評価については、教育委員会はどうの考えか。私はあまり学校に負担をかけるようなことがないようにしていただきたい。

指導主事      ・この評価については本当に難しい問題だと思う。単純に言えば4観点が3観点となり楽になったと思われる方が多い。知識、技能、思考力、判断力、表現力については、委員がおっしゃられたとおりである。教員が、主体的対話的で深い学びをどうやっていくかが、ここの大きな観点だと感じている。  
・ただ、教員の負担増ということもあるので、そのあたりは示す予定だが、あとは校長先生等の判断でやっていただければ、教育委員会としてはいいのではと考えている。

教育長        ・働き方改革の面では、31年度は、県下一斉で教職員の時間外勤務が月80時間超はゼロにするということなので、大府市も校長会等で話をしてきた。今、国は月45時間までと、年間360時間と出しているの、より一層難しくなるが、教職員の多忙化解消に取り組んできたし、今後も、その方向に向けてやることをやっていく。

- 西村委員 ・ 道徳に関して、先ほど「大府市にゆかりのある人」の教材を見させていただいた。これをぜひ保護者の方も見られるようにすれば、子どもの学んだ姿と考え方が保護者もわかるのではないかと思った。保護者を巻き込む道徳の学びに学校の授業が変わっていくと、社会の道徳的基盤を作ることにもなるのではないのかなと思う。この教材が学校に置きっぱなしになるのではなく、親も見られると良いと思った。
- 指導主事 ・ 本当にそのとおりで、保護者と子どもと一緒に考えて、考えの深まりになることも多いと思う。各学校は道徳の授業が終わると振り返りをやっているが、その振り返りをファイリングして持ち帰り、保護者に見ていただく学校も多い。
- 富田委員 ・ 私は人を育てるのは人だと思っており、教員がいかにその子に合った教育をしていけるかどうかが非常に大きなポイントだと思う。道徳を充実させるということは、担任がクラスの一人一人をより詳しく見るようになるから、いろんな面で効果が出ると思う。  
・ 英語については、得手不得手がある。専門性が非常に大きな問題だから、英語の専科教師の加配が大府市で1名なので、どう活用していくかが非常に大きな問題になる。また、できれば、市単独でも、英語専門の方が各学校に入っていけると、なお良いと思う。配置、活用方法を工夫していただきたい。
- 指導主事 ・ この加配1人について、県の加配として、現在東山小学校と石ヶ瀬小学校に配置している。国は担任が授業を受け持つと言っているが、県がこのような配置した理由は働き方改革の一環である。31年度も非常勤講師等で加配がいただければ、有効活用の仕方を考えていく。
- 浅井委員 ・ 小学校3、4年生に英語に慣れ親しむというところがある。私は大学るとき、カナダに留学し感じたが、英語の発声と日本語の発声では、胸式発声と腹式発声で全く違う。腹式発声で英語を読むと上手に聞こえる。小学校3年生とか4年生というこの最初の段階で、英語の発声方法と日本語の発声方法は違うというところを教えていただけると、後々良いと思った。
- 竹中委員 ・ 2020年度からの新学習指導要領は大改革だと感じた。アクティブラーニングにふさわしい教科書の改革は国でやっているか。
- 指導主事 ・ まだ教科書等の見本が送られてないので、はっきりしたことは言えない。道徳の教科書では、問題解決型の授業提案だとか、考えて議論する道徳が言われているので、そういったアクティブな部分を踏まえた授業の展開も例示されて

きている。

市長

・英語、道徳、情報について、新年度から、いろいろ新しい仕事が増えて、先生方も大変だと思う。教育の内容は、先生、教育委員会にお任せする。市役所としては、予算措置あるいは人材等の面で必要なところがあれば、しっかりと対応していきたい。

・授業時間数が増えるという話があったが、議会からも、せっかくクーラーをつけるから、夏休み等工夫し、1日の負担を平準化してはどうかとの御意見もある。土曜日を使うとか、夏休みも使うとか、それは先生の多忙化につながるような形でもできるのではないかという意見もある。県内の他の市町がやってないという話もあるが、今後の検討をしていただければと思う。

## (2) 子どもの学力テスト・体力テストの結果について

《事務局から内容について説明》

指導主事

・こちらの結果は、全国学力学習状況調査のものになる。対象者は、今回の結果については小学6年生と中学3年生。調査内容は調査内容1として、教科に関する調査ということで国語、算数数学、それから今年度は3年に1度ということで理科の結果も載っている。それから調査内容2として、学習意欲、学習方法、学習環境、生活面に関する調査となる。

・調査内容1の調査について、全国平均と大府市の平均と比較をしているものになる。小学校の国語調査を例に出すと、若干上位層が少ない分、平均のところ集まっているというような状況。他教科も小学校については全体的に同じ傾向で上位層がやや少なめで平均得点の層のところは厚くなっているというような状況。

・中学校の結果について、小学校とは異なり成績上位からピーク付近、成績上位層の割合がどの教科も多く見られている。特に数学は全国と比べてみても、プラス5ポイントということで成績上位の割合は非常に多くなっている。

・調査内容2の結果について、小中ともに「自分にはよいところがある」や、「学校の決まり規則を守っている」、「基本的な生活習慣をきちっとしている」については肯定的な割合が多い。また、中学校では「地域社会などのボランティア活動に参加をしている」や「地域の大人の方に勉強スポーツ教えてもらったり一緒に遊んだりする」について全国平均より肯定的な割合が高い。

・「地域や社会で起こっている問題とか出来事に関心がある」や、「自分で計画的に勉強をして学習をしている」についてはやや肯定的な割合が低いという課題が出ている。

・基礎的基本的な知識や議論については身についており、定着もしてきている。また、複数の情報や内容を比較検討して考えるということについては、改善の傾向が見られている。それから「自分にはよいところがある」や「将来の今日



標がある」と回答した児童生徒は年々増えており、自己肯定感の高まりも見られる。

- ・逆に課題としては、周囲の人に自分の考えや思いを説明したりすることに苦手意識を持つ子どもが多い。また、自分の考えを相手にわかりやすく記述したりするという点にも課題が見られる。地域行事に参加はするが、地域に関心が薄いことも課題である。

- ・このような状況に対して、市内の各13校小中学校でも独自の分析をしており、市の結果と各小中学校の結果はそれぞれ各学校から、保護者にお知らせをする。

- ・体力テストの結果については、小学5年生と中学2年生の結果になる。参考のために昨年度の結果も載せた。大府市の傾向としては、全国平均に対しては愛知県と同様の傾向を示しており、なかなか小学校の段階では全国平均に至らない部分が多いが、中学生になると、全国平均を上回るものも出てくる。ここ数年、同様の傾向になっている。

- ・運動習慣という視点で見ると、小中ともに男子は、運動時間が全国の平均よりも確保されており、女子は時間が少なく、特に中学生については、運動をしている子としていない子が二極化している。

- ・走るとか投げるといった基本動作による運動能力では、まだまだ改善の取り組みが必要となる。よって、授業や、放課、中学校では部活動の場面などを活用して運動経験を積ませたり、運動時間を今後も確保していきたいと考えている。

- ・具体的な手だてとして、保育課で取り組んでいる大府市運動遊びプログラム、は、主に就学前の児童を対象に、取り組んでいただいているが、このプログラムを小学校の体育の授業で活用できるよう検討を進めていきたい。

- ・中学校では部活動について、顧問の先生とほぼ同じような立場でできる部活動指導員制度の活用をすることで働き方改革も含め、部活動の時間も確保していけるように、取り組んでいきたいと考えている。

教育長                    ・御意見御質問をお出しいただきたい。

浅井委員                ・まず、学習のほうに関しては、あまり問題はないのではないかなと思った。小学生で上位層が少ないのは、推測だが中学校受験をする地域の方々が圧倒的に強くなるような気がするが、大府市の場合、公立小学校、中学校に行く子が大多数で、また、中学校の段階で挽回できているからあまり気にしなくてもいいと考えた。

- ・記述式の問題に回答するには、合理的に物事を考えることも必要で、トレーニング方法の一つがプログラミング学習ではないかと感じた。

指導主事                ・平均的な力を持っている層が多いということは、そういう子たちに絞って先

生方も指導をしやすいので、理解の遅い子の方にも注力できるという部分では、いいと思う。また、記述についても、論理的に物を考えると、少しずつステップを踏んで順番に物事を考えるという習慣、そういう経験を積んでいくことで、少しずつ改善されていくと思っている。

永田委員 ・学習意欲、学習方法、学習環境の面等に関する調査というところで、肯定的な割合が高いところと、肯定的な割合が低いところがある。ショックなのは、いじめはどんな理由があってもいけないことだと思えるということに対して、肯定的な割合が低いこと。理由は、調査の中で書き出されているか。

指導主事 ・具体的なその理由までの記述はない。全国平均から若干低いので、そこは課題ととらえて今後も学校で通り取り組んでもらう。

永田委員 ・肯定的な割合が高くなればなるほど、いじめ等もなくなってくると思うので、考えていただいてやっていただきたい。

西村委員 ・大府市運動遊びプログラムについて、保育園のみならず、児童センターでも実施して小さいときから運動能力をつけたほうが、改善の方向に向かうのではないかと思った。

教育長 ・保育園のプログラムを小学校の低学年に当てはめていけないかということで関係の方々のお話を伺っている。いろいろ御意見を伺いながら検討していく。

富田委員 ・学力に関して、私も浅井委員と同じ意見で、小学校ではおおむね良好で、中学校では良くできているのはいいと思う。小学校では全体的な人間の力を伸ばすことも重要。

・2つ提言したいことがある。1つは、学力テストが高い3県は、学校、家庭での学習率が非常に高いと聞く。よって、私は宿題をどうやって出すか、家庭でどう学習に取り組ませるか、1回考え直してもいいと思う。

・もう1点は、読書が読解力を高めるのにすごく重要だと思う。読解力をどのように高めていくかを各校に働きかけてもいいと思う。

浅井委員 ・宿題について、全員、同じ宿題を出すのは、効率が悪い気がする。本人が選んでも良いが、学力に合せた宿題はどうか。

竹中委員 ・私は運動習慣がなかったが、今般、市のウォーキングイベントに参加させていただいた。歩くことなら誰でもできるので、運動していない女子中学生に、ウォーキングしましょう、と大府市として呼びかけたら良いのではと感じた。

市長

・学力テストの結果については、委員さんがおっしゃったとおり、良いと思っている。中でも、うれしかったのが、中学校の数学がより良くできていること。例えば、永田雅宜賞のようなものを作ると、さらに永田さんの名前が全国に知られると思った。

・体力については、これは愛知県全体が低いとはいえ、ボール投げや、走るという基本的な、動作については体育等で、できるだけ多く取り入れていただきたい。

・体力向上プログラムについて、保育園だけではなく、児童センター等でも、新年度、体力向上のための子育て支援講座として新たに実施していく。

### 3 その他

特になし